

全国B.M.C.(全国宴会支配人協議会)からの月1回の通信です。

## 内容:

- ・ ウエディングシンポジウム 2011 報告
- ・ SNS の活用

## 北から南から

- ・ 京滋奈BMC

## 編集後記

## ウエディングシンポジウム 2011 報告

8月16日(火)横浜で、ウエディングシンポジウム2011が開催されました。全国BMCやホテルの看板を背負ってはいるものの、あくまでも個人としての意見を発言してきました。

シンポジウムの話題として取り上げられたのは、ご祝儀で結婚式ができるという謳い文句のエージェントの考え方。増え続ける消費者センターからの苦情。持ち込み料。安心して利用できる施設の基準作りなどでした。

全国BMCとしてできることは、会員であることが、お客さ

まが施設を選択する際の一つの基準にできるようになることだと思います。

今回、太田社長の海外を含めホテルの細部に渡る知識を改めて知りました。

婚礼ジャーナリストのひぐちまりさんの「結婚式のお金は費用ではなく、未来への投資だ」という言葉に感銘を受けました。

石渡さんは、元ホテルマンだけあって単に雑誌を発行しているところとは違う感性を持っています。

式場側として参加された他のお二人(草山さん、本

中野さん)も興味深い発言をしていらっしゃいます。

その後の懇親会では大勢の人と交流することができ、個人的にも非常に収穫のある会でした。

当日の様子はユーストリームでご覧いただけます。

<http://ustre.am/17Y2t>

私の出番は50:00過ぎになります。

全国B.M.C.会長  
伊藤 保  
(以上)

## SNS の活用 (Face book、ツイッター、ブログ、mixi)

みなさんの施設はホームページをお持ちですか?この質問にNoと答えるところは皆無でしょう。今や、自社ホームページ、メールでの問い合わせや予約受付は標準となってきました。

数年前からは、メルマガ、モバイルマガジン、ブログなども増えてきましたし、最近ではツイッター、フェイスブックで色々な施設(ホテル)を見かけるようになりました。

これらは個人でしている人も多く(私もその一人ですが)、スタッフが芸能人の来館情報を書き込んだりするなど

の問題も表面化してきています。アルバイトを含め従業員教育に、これらを入れる必要があると思います。

しかし、正しい使い方をすればこんな優れた情報交換の場はありません。私の場合フェイスブック、ツイッター、ブログ、mixiを使い分けています。フェイスブックは「友達」がブライダル関係者とロータリークラブメンバーなので、書き込む内容は主に仕事に関すること。ツイッターは毎日の体重を「つぶやき」自らの健康管理に。ブログは若い人たち向けの食

べ歩きと接遇講座のような内容。mixiは「マイミク」が老若男女幅広いので、広島での食生活を中心にプライベートを。

私はたいしたことは書いていませんが、中にはとても参考になるものがあります。

ちなみに私はフェイスブックは本名で、ツイッターはchibideboo685、mixiはちびでぶで登録しています。ブログは「漫ろ言」です。友達、マイミク申請、フォローなど拒否しません。

伊藤 保

## 北から南から

皆さんこんにちは、3月11日の大震災より半年がたちました。今回の震災で被災された皆様方に謹んでお見舞い申し上げますと共に、一日も早く普段の生活に戻れますことを心よりお祈り申し上げます。

京滋奈 B.M.C. 会員ホテルは震災の影響で宿泊・宴会・婚礼に影響がりましたが、何とか平常を取り戻そうと皆で協力し合い頑張っております。今回京滋奈 B.M.C. から

は全国 B.M.C. 夏季研修会・会長会で開催予定でありました若手エッセイコンテストを4月に独自で実施し京滋奈 B.M.C. 内で優秀賞を決めました。

京滋奈 B.M.C. の若手エッセイコンテストは元会長で現在全国の会長をされている伊藤会長が京滋奈 B.M.C. の若手を育成する為、4年前より開催しており今回で4回目を迎えます。今回の京滋奈 B.M.C. の大会では最優秀賞・優

秀賞・敢闘賞を選出し上位3名に関東方面の研修旅行をプレゼントいたしました。役員による採点の結果、同点で最優秀賞が2名選出される事になりましたが、今回の冬季全国 B.M.C. の大会には1名しか出場できない為、大会に出られない最優秀賞者のエッセイを皆様に読んで頂きたいと思い、今回の B.M.C. Times でご紹介いたします。

(最後頁に掲載します)

### 全国 B.M.C.

2011-2012 年度会長

ホテルグランヴィア広島  
伊藤 保

〒732-0822  
広島市南区松原町  
1 番 5 号

TEL:  
082-262-1111

FAX:  
082-262-4050

E-MAIL:  
[t.ito@hgh.co.jp](mailto:t.ito@hgh.co.jp)

Web サイト

URL:  
<http://www.e-bmc.com/>

1月の大会にはもう一人の受賞者が発表いたします。

京滋奈 B.M.C. では今後も引続き若手の育成に力を注いで生きたいと考えており、地域全体で活性化をはかりたいと思っております。

いつまでの落ち込んではいられません、今、何ができるか、何をすべきかを BMC で考え行動に起こすことが大事ではないかと考えております。

### 編集後記

今年も暑い夏でしたね。毎年暑さが酷くなっているような気がするのは私だけでしょうか。企業の節電に対する取組姿勢は温度差が見られましたね。是非はともかく、エネルギー問題はこれからの日本の重要な課題だと思います。

広島の CM になります。宮島に「みやじマリン」という水族館がリニューアルオープンし、先日広島 BMC メ

最後にりましたが、今回京滋奈 B.M.C. で行いました研修旅行でお世話になりました各ホテルの皆様に厚く御礼申し上げます。

京滋奈 B.M.C.  
会長 市川 修

ンバーで見学例会に行ってきました。水族館見学の後には、国民宿舎で食事をいただきながら、広島県観光課の方に、宮島の歴史について講演をしていただきました。こんな勉強会もいいですね。京滋奈時代は、宿泊例会が楽しみでした。天然温泉の露天風呂があるホテルで大衆演劇を観劇したのですが、たった一度ではまっていまいました。

■北から南からの予定  
9 月・・・京滋奈(今回掲載)  
10 月・・・中国(次回掲載)  
11 月・・・九州  
12 月・・・名古屋  
1 月・・・北陸

では、中国の瀬島会長よろしくお願いたします。

## 京滋奈 B.M.C.若手エッセイコンテスト最優秀賞 ホテルラフォーレ琵琶湖 川口 麻衣さん

「なぜ若者がホテルから離れていくのか？」「プランナーの醍醐味とこれからの可能性」

私は以前、ホテルの料飲部門に8年所属しており、この8年間の中でも利用者の高齢化は著しく感じておりました。

町場の料飲施設が充実し、広告媒体においても多く露出され始めてきた事や、ホテル＝敷居が高いというイメージも若者のホテル離れの要因のひとつだと思います。

また、結婚式においても会場は親が決める時代から子が決める時代へと変わってきています。流行に敏感な現代の若者世代にとって、常に流行を追いかけた目新しい物や、流行語にもなっている「オリジナル」というワードに魅力・価値を感じる世代であることも要因だと思います。

現在の婚礼ターゲット層の親世代を含めて、バブル絶頂期、そしてバブル崩壊とシビアな時代を経験しているからこそ自分にとって本当に価値のあるものが買われる時代にあるのではないのでしょうか。

ホテルという大きな組織の中にいると上司や経験の長いものの中だけで企画や話がまとまってしまっていたり・・・という事例は実際よくある事だと思います。

しかしホテル婚礼を盛り上げていくには、婚礼ターゲット層と同世代である若手プランナーの意見や行動が先入観無しに、積極的に受け入れられる社内環境である事が大切だと思います。エネルギーのある若手の力を最大限に引き出してあげられる環境作りを目指すべきです。

又、他のセクションのスタッフへも自分の部署が今どういう事を考え、何を目指してどういう方向に進んでいるのかを伝え、理解してもらえる事。そしてホテル全体が同じ方向を向き強いひとつのチームでなければならないのです。

ここで弊社においてホテル全体で作りに上げた結婚式での感動のエピソードを紹介させていただきます。

新婦のお父様がすでに余命1ヶ月という宣告を受けておられ、お父様に花嫁姿をみてもらう為に2週間後にご家族だけで結婚式を挙げたいという意向での新規来館でした。

しかしお父様は闘病真っ只中であり、直前にならないと体調次第では来れないかもしれないという不安を抱えながらのご家族の決断でした。

挙式2日前、お父様の列席が極めて難しいという報告を受けました。

結婚式を挙げると決断したご家族の気持ちを決して無駄にしない提案をして差し上げたい、どうかならないかと考える一方、家族の問題にどこまで立ち入るべきなのか？を考えた結果ご家族に相談し、挙式後ドレス姿でお父様の病院へ行く事を提案しました。ご家族、

病院側にも賛同して頂き挙式後、娘の花嫁姿を一番に楽しみにしていっしょ

ったお父様のもとへ向かいました。

人前ではピンッとしていたいというお父様の気持ちを配慮し衣裳スタッフがモーニングを持参しました。

このサプライズをかけがえのない一生涯の思い出として形に残す為にカメラマンが同行しました。

新郎新婦、ご家族を車両スタッフが病院までお送りしました。

出発時、調理スタッフ、レストランスタッフ、フロントスタッフ皆でお見送りしました。

沢山のパートナーの協力がありこのサプライズフォトウェディングを両家にとってかけがえのない最高のウェディングにすることができました。

ご家族様より「〇〇さんの嘘みたいな提案が私たち家族の人生を大きく変えました。あり得ないと思っていた父のあの笑顔をもう一度見ることができ落ち込んでいた日々が嘘のようです。ありがたい言葉では伝えきれないくらいの感謝の気持ちでいっぱいです。〇〇さんそして〇〇ホテルの皆さんと出会う事ができた奇跡に本当に感謝してます。」とのお手紙を頂きました。

家族の絆の瞬間を近くで垣間見ることができる、そしてそんなかけがえのないお手伝いのできるウェディングプランナーの仕事に私は誇りを感じます。

そしてホテルという大きな組織の強さを改めて実感しました。

結婚式とは、衣裳、写真、美容、サービススタッフ等それぞれの専門分野のスタッフがパートナーとなり一つのチームとして同じ方向を向き作り上げていくものです。そしてその全てを取りまとめる指揮官となるのがウェディングプランナー、正にオーケストラの指揮者です。東北震災後、日本中が人の絆の大切さ、尊さを再確認している今だからこそ本当に素敵な結婚式を作っていかなければ、と強く思います。

お客様からの本当のありがとう、本当の笑顔をもらえることこそウェディングプランナーの醍醐味です。自分自身が一番輝いていられる居場所である以上、ウェディングプランナーとしての誇りを持ちお客様の幸せのお手伝いを続けていきたいと思っております